

CAVOK 2016年航海日誌 NO3

(7月6日(水) Catania~7月21日(木) Corfu)

松崎義邦氏メール(7月24日)

皆様に

丁度今回の航海中にニースのテロ、トルコのクーデターと地中海周辺は不穏な動きがありましたが、幸い小さなローカルの港町を廻っているせいもあって至って平穏な航海を続けることができました。

このレグは、カタールで正田さんが下船した後、暫く悦子と2人で航海を楽しみました。2012年航海したレグと同じになりますが、この間はマリーナが少なく一日70NM程度の行程が続きます。時間に換算しますと12時間から14時間位の一日の行程になります。基本的に私一人でウオッチするので通常30NM前後のコースにしますが寄港地が少ない関係で短く出来ませんでした。途中1か所小さな港があるのですがパイロットブックに拠ると水深2mということで敬遠していたのですが、イオニカでその港に入港できるかどうか確認してみると大丈夫との事でしたので寄ることにしました。入ってみますと中世のお城のある素敵な漁港でした。もっとゆっくりしたところがあったのですが7月16日にコルフ島に毎年乗艇しているロシア人ピアニスト Lisa が来るのでその前に着くように日程と睨めっこの行程になりました。幸いに風、お天気にも恵まれ順調にイタリア半島の長靴の部分を寄港しながらギリシャのオトニ島と云う小さな島に到着しました。島の入り江には美しい浜があり、アンカーリングをして海水浴も楽しみました。次の島エラコウサ島では2015年に知り合ったイタリア人夫妻と再会することが出来ました。夫妻の家で入り江を眺めながらの食事の良い思い出です。コルフ島に暫く係留する予定のお話しをすると彼らのヨットの係留場所を使ってくださいという事になり借りる事にもなりました。彼らのヨットは夏の間この島に係留してコルフ島のバースは空いているからの事でした。

Lisa が来る前日の15日にコルフ島グービア・マリーナに入りました。イタリア人夫妻のお蔭で無料でマリーナに係留出来ました。

16日から Lisa と3人になりましたが、翌17日から風が暫く強く吹きマリーナから出港出来なくて、レンタカーで島内観光を楽しみました。彼女は事前学習で良く調べてきているので美味しいレストラン、綺麗なビーチ等を案内してもらいました。地元の人たちが食べにくるレストランでの食事はとっても美味しい料理でした。コルフ島の最高峰の山の頂上から見るアルバニアの山々を背景にしたイオニア海は見ごたえがありました。折角 Lisa が乗艇したのに出港出来ませんでした。島内を隈なく回り楽しい日々でした。彼女がドイツの大学の教授に昇格したという事で満月の月を見ながら連日のパーティも楽しみまし

た。21日に CAVOK5 をグービアマリーナに置いて一時帰国致しました。8月7日からギリシャ南部に向けて航海を再開する予定です。

自宅にて
松崎義邦

以下の写真を添付させていただきます。

1. タオルミーナでのクルーズシップとトールシップ
2. 南イタリアの、ル・カステラのアルゴン王朝時代の要塞
3. 艇内料理 アクアパッタ
4. オトーニ島の入り江
5. オトーニ島浜辺にて
6. エリコウサ島サンドラ邸で
7. コルフ島グービアマリーナ
8. コルフ島最高の山よりアルバニアを望む

2016年 CAVOKV 航海日誌(3)

7月6日(水) Catania ~ Taormina (24NM) 快晴 北東5 ~ 10ノット

朝メールで日本から頼まれたケッパーを市場に買いに行ってから、10時に舳いを解く。いざ前進しようとするとう舵輪が動かない。舵のロックや引っ掛かりが無いか確認するが問題ない。ラダーに何かがついて固定してしまったのか一瞬考える。マリーナに舵が利かない状態で接岸しなければならない。どのようにしたらよいか?などと考えながらオートパイロットに目をやったら、オンになっていた。いつの間にかオンにしてしまっていたみたいだった。初めての経験だった。

港を出るとうねりが若干あってピッチングをする。風はほぼヘッドウインドなので機走する。

エトナ山の全容を見ながらタオルミーナ迄の航海となる。出来れば直接南イタリアの Rocella Ionica に向かいたいところだが80NM以上あるので、タオルミーナに寄って少し距離を稼いでからにした。

タオルミーナの泊地に近づくと4隻の大きな客船が錨泊していた。Club Med2(187m)、Sirena(181m)、帆船 Royal Clipper(137m)、帆船 Star Clipper が確認できた。

前回錨泊した地点付近に14:50アンカーを打つ。水深が9m あったので40mチェーンを出した。

泳いでアンカーを見に行くが良く見えず確認は出来なかった。

10 艇近くの艇が錨泊していた。



夕暮れ時に茹でエビで一杯やってから、野菜サラダ、マグロのトロ刺身、マグロのグリルを白ワインで頂く。エビは鮮度が良くみそが美味しく、2日目のトロの刺身は初日よりまろやかになり一層美味しかった。

21時には暗くなる。早寝、早起きで明日早くアンカーを揚げて出ることにする。

Paolo が電話してきてくれる。明日奥さんの Rahel が英国より帰国との事だった。

7月7日(木) Taormina ~ Roccella Ionica (69NM) 快晴 北15~20ノット後微風

今日は長丁場なので起き次第の早朝出発にして、5:50にアンカーを揚げる。6時過ぎに朝日が昇ってきた。タオルミーナの泊地を出ると北風が15ノットほど吹いている。船は東進、風は北からで俊足の出だしになる。暫く充電の為エンジンを回してから帆走だけにするが7ノット以上のスピードで快調だ。途中風速が20ノットになって、時折9ノットになる。ヒールもきつくなるのでジブ、メインとも3ポイントリーフにするがそれでも7ノットはキープして順調な滑り出しだ。

揺れがあったので朝食は取りあえずビスケットと水だけにしたが、3ポイントリーフして揺れが少し収まってから悦子が簡単なサンドイッチとスープを作ってくれた。

この風も3時間で終わり北から南東の微風になる。諦めて機帆走にする。地中海は一定風が続いて吹くことは少ない。

メッシーナ海峡を越えてイタリアの長くつづつま先の沖合を昼前に通過する。ここからは波もなくなり静かな海面になる。お昼にはざるそばをビールで頂く。やはり日本人はスパゲティでなくそばが合うようだ。

昨日予約を入れておいた Roccella Ionica のマリーナに 1 NM の距離になってから無線を入れる。このマリーナは入り口が砂の堆積で浅くなっているため、オン・ザ・サンドしないようにボートが来て誘導してくれる。入り口の手前にボートが待機していてくれ無事港の中に入る。

ガソリンスタンドがあったので 17:20 に横着けして給油する。満タンで 100L 入った。トラパーニから 47 時間エンジンを回して 100L の消費であった。

マリーナオフィスに手続きに行くと以前に来たのを覚えていてくれた。

港の隣が海水浴場だったので早速泳ぎに行く。水もきれいで、到着後の海水浴は気持ちが良い。

艇で一杯飲んだ後、港にある「レストラン・ピザ」に行くが寂しい港なのに 50 人以上のお客さんがいた。この店はピザが美味しいと云う評判を聞いていたので早速マルガリータとベジタリアンピザを食べるが四角いピザでチーズたっぷり、野菜たっぷりで美味しかった。

7月8日(金) Roccella Ionica 快晴 微風

昨日結構走ったのでもう 1 日ここでゆっくりすることにした。毎日が日曜日だがこうしてゆっくり出来る時間は現役時代の日曜みたいで好きな時間だ。

午前中シーツ類を日本から運んできた小型洗濯機で洗濯する。大型シーツ 1 枚が一回の洗濯の限界だが、自動でやってくれるので結構重宝している。

洗濯物は、燦燦と輝く太陽と、風、そして空気が乾燥しているのであっという間に乾く。

イタリアの長靴のつま先にあたるカラブリア州は山が多く厳しい土地だが海岸線は砂浜が長く伸びロングビーチのきれいなところだ。マリーナから自転車で町迄行く。海岸線は所どころビーチパラソルが並び田舎の海水浴場という感じの海辺だ。

陸上は暑い、自転車で汗をかいたのでビーチサイドの出店でシャーベットを、海風を浴びながら食べる。町で果物、生ハム、牛乳、ティーパック、ビールを買う。ビールは直ぐなくなる。非常にビールが美味しい。

お昼は昨日お店で食べたピザの持ち帰りがあったのでビールで食べる。

同じポンツーンに繋留していた 6, 7 隻のヨットも昼過ぎには出て行った。

隣の艇はフランスからだったが同じ方向に行くとの事で再会を約した。

日中は暑いので艇の上の日陰で心地よい風を浴びながら読書しているとウトウトしてきて午睡に入る。

4 時過ぎに海岸に悦子と泳ぎに行く。水温も暖かくなり、きれいな海水の中で泳ぐ。南イタリアの外れのせいか海水浴客も少ない。素晴らしい海水浴場を持っているので良い

観光地になると思う。現に最近、南イタリアは観光に力を入れているようだ。

夕食はベーコンと玉ねぎを上に乗せたズッキーニ、サラダ、そしてラムチョップをビールと白ワインで頂く。ラムは柔らかくて美味しかった。

月も上弦の月になり日が暮れると西の空にくっきり見えてくる。静かな夜だ。

7月9日(土) Rocella Ionica ~ Le Castella (45 NM) 快晴 微風後北15 ~ 20 ノット

07:00に久しぶりにポンツーンに横付けした舳いを解く。出口の砂の堆積による浅瀬が心配なので忠実に入港した経路をたどる。

風がなく3時間ほど機走するが10時過ぎに北北東からの良い風が吹き出し帆走に移る。当初クローズホールドであったが風が北に回り15ノット以上になる。艇速も7ノットを超えるようになる。風は増々強くなり海面にウサギが飛ぶようになる。リーフを考えたときの早めのリーフが鉄則なのでジブ2ポイント、メイン3ポイントリーフする。それでも艇速は8ノット前後をキープする。フルセールでも左程スピードは変わらないと思う。ヒールが少なくなる分リーフした方が快適だ。

CAVOK5はJeanneau製の船だが腰が重く、強風時には安定感がある。さらにリーフすることにより、より安定したセーリングが出来る。

この後3時間ほど8ノット前後のスピードで帆走する。

今まで2回ほどイタリアのこの地方を航海したが今回初めてLe Castellaに入ることにした。パイロットブックを調べると入り口が狭く、そして水深が2mと云うことなのでCAVOK5がドラフト2mだったので今まで敬遠していた。今回Ionicaで聞いてみると問題ないということなので寄ることにした。Crotone迄だと70NMあるのでダイレクトでなく、途中で寄港できると楽というのもあった。

注意深く入り口を通過するが一番浅いところで2.6mだった。

電話しても、無線で呼んでも返事がなかったがマリーナの中に入ると、入り口の先の岸壁に横付けするよう指示してくれた。田舎のマリーナと云う感じだ。それでも電気、水道、トイレ、シャワーがある。係留料も35€と安い。

マリーナの名前の通り要塞があり、早速海水浴がてら見学に行く。モンサンミッシェルとはいかないが、陸続きであるが一つの島が要塞になった感じだ。紀元前4世紀のギリシャ時代からの歴史があるそうだが中世アルゴン王朝がトルコの襲来に備えた要塞だったそう。



帰りに岩に囲まれたきれいな入り江で泳いで帰る。とにかく日中陸上では猛暑だ。但し海の上は快適だ。夕方になると夜風が心地よい。魚屋があったのであさりを買う。夕食はそのあさりでボンゴレーを作る。野菜スープ、サラダ、スパゲティ・ボンゴレー、そしてマグロのトロを頂く。

毎食が美味しい。潮風、太陽、海水浴そしてセーリングの心地よい揺れが食欲を増進させてくれるからだと思う。

7月10日(日) Le Castella ~ Crotona (20 NM) 快晴 微風5 ~ 8 ノット

元々の計画では Rocella Ionica から Crotona までダイレクト行く予定であったが70 NM あるので Le Castella に寄港した。したがって今日は20 NM の近距離のクルージングになる。朝魚屋に今晚の前菜を買いに行く。大きめの新鮮なエビがあったので買う。

9:50に岸壁からのもやいを解く。ここは出口が狭く浅いのでデッドスローで出る。浅いところで2.1mだった。

生憎と風が前からの北東風だったが7,8ノットの風だったのでクローズホールドで帆走する。波がないのでスムーズで気持ち良い。タッキングを繰り返しながらセーリングを楽しむ。お昼にはざるそばを頂く。冷えたビールで喉を潤した後のそばが美味しい。

到着前4 NM 位から風も収まったので機走に帰る。Crotona のマリーナは3回目になる。ここも入り口に砂が堆積していて去年は On the sand しているので用心して通過した。

昨年と同じ Lega Navale Crotone に 15 : 20 に舫う。久しぶりにタッキングしながらのセーリングを楽しんだ。前は 6 月だったが繋留料が 30 € だったが今回は 7 月のせいなのか 60 € だった。2012 年に寄ったときは 20 € だった。

早速マリーナの脇にある海水浴場で泳ぐ。日曜日のせいか家族連れの海水浴客でにぎわっていた。

艇に戻りコックピットで読書していると、案の定入り口で On the sand している艇が居た。夕食は朝仕入れた蒸エビとハムをビールで頂いた後、パスタ、マグロのトロをご飯で頂く。

トロは冷凍マグロでないので大変美味しく毎晩頂いている。悦子はトロのマグロの油にやられたようだ。

上弦の月もだんだん大きくなってきた。

7月11日(月) Crotone ~ S.Maria di Leuca (71 NM) 快晴 北10ノット後微風

朝起床してから直ぐ出港の準備をする。悦子は朝のコーヒーを入れる。05 : 30 に舫いを解く。出港して7, 8分で太陽が上がる。橙色で大きな木星が上がってくるようだった。

暫くすると予報通り北の風が10ノット前後吹き出してきて、進路は東なのでアビームの風を受け5~6ノットでセーリングする。この風も2時間少々で弱くなりその後のレグは全て機帆走する。海面は静かなので機帆走でのんびり走る。

楽しみのお昼はビールでチャーハンを頂く。朝早い出港だったので途中1時間弱悦子にウオッチを交代してもらい休んだ。気持ち良い昼寝だった。

マリーナに近づいて錨泊も考えた。既に5艇ほどアンカーリングしていたが1艇はカタマラン、2艇はリフトキールのALUBAT社のOVNIシリーズだった。そして他の2艇は小型ヨットだったので水深を考えて錨泊は止めた。実は昨年入り口で On the sand した。

17 : 40 に舫う。昨日日曜日で買い物が出来なかったのでスーパー・マーケットで大事なビールを筆頭に野菜、果物を買う。

Leuca はイタリアの長靴のヒールの部分にあたる。明日からギリシャに入る。

大変暑い。夕方陽が落ちてからやっと涼しくなる。シャワーを浴びて夕食はレタスとトマトのサラダ、茹でエビ、高野豆腐、マグロとオニオンの炒め物をビール、白ワインで頂く。

食後心地よくコックピットでやすむ。

7月12日(火) S.Maria di Leuca ~ Othoni (50 NM) 快晴 北6~8後微風

07 : 15 に舫いを解く。マリーナの出入り口は on the sand しない様、入った航跡を辿りながら微速で出る。

幸い北北東の風が7ノット前後吹いていたので帆走に移る。クローズホールドでコース

をキープ出来ないが約1時間帆走を楽しんだ後、風も落ちて来たので機帆走にする。静かな海面だ。周りを見ると5艇ほどのヨットが同方向に進んでいた。

お昼は冷やし稲庭うどんをビールで頂く。本当にのどかなクルージングだ。

イタリアとギリシャは1時間の時差があり途中でプラス1時間の修正をする。

Othoni 島は昨年6月に寄ったところだ。今年は8月のせいか漁港の方のポンツーンは先着で埋まっていた。ここは暗礁もあり底も浅いので微速前進で用心して入港する。昨年着けた反対側の岸壁も2艇で埋まっていたが“その横の岸壁もつけられるよ”と岸壁に係留している艇の奥さんに教えてもらいそこに着ける。



ここはきれいな海水の港で底まできれいに見える。早速泳ぐ。熱くなっているからだに海水が心地よい。島の集落までは約1 kmあり離れている。ここはギリシャなので表敬旗としてギリシャの旗を右舷サイドに揚げなければいけないのだが艇内に見つからない。集落に買いに行くがまともな国旗はなくおもちゃの国旗を買った。

イタリアとは違い、ピZZリアはタベルナになっているし、猫が沢山いる。フェリーの着く湾の方には12艇ほど錨泊していた。こちらの方が集落に近くて良い泊地だと思った。

漁港の岸壁に漁船が着いたのでタコ、イカを求めて行くがなかった。代わりに1.5 kgの大きな鬼カサゴを30€で買う。

晩御飯は鬼カサゴの半身でアクアパツァを料理してくれた。ドライトマト、生トマト、ニンニク、オリーブ、ポテトでの味付けが白ワインと合って美味しく頂いた。



小さな島の小さな港で静かな夜を過ごす。

7月13日(水) Othoni ~ Erikoussa (10 NM) 快晴 微風

昨日舳れを取ってくれたスイス艇にお礼を言ってから10:00に岸壁からのもやいを解く。ギリシャに入ると港、マリーナの整備も整っていない代わりに無料のところが多い。電気、水道はないが費用が掛からないので助かる。

オッターニ島の海からしか行けない入り江の砂浜に行きアンカーを打つ。ここは昨年エリコウサ島で知合った Franca に好きなところと教えてもらったところだ。まだ1艇も来ていない。海水の青の色が幾色にも変化して美しい。水の透明度含めて素晴らしい海を独占した気分だった。



泳ぐと水深10mの砂地の底が上から良く見える。

ラバーボートで上陸して海岸も楽しむ。昼前になると次々と大型ラバーボートで海水浴に来る。12:30にアンカーを揚げて10NM先の隣のErikoussaに向かう。微風なので機走する。

前回お世話になったSandroの家の前の入り江にアンカーを打つ。海水浴場の沖の水深5mの砂地だ。ここも透明度の高いきれいな海だ。

ラバーボートで上陸してSandroの家に行くが誰も見当たらないので戻る。アンカーは砂地にしっかりと食い込んでいた。

日中は大変暑い、熱くなった体を海で冷やす。

再度WIFIを使うため上陸するとSandro夫妻に再会する。



良く覚えていてくれて、サントロペでの艇の越冬時誘われていたフランスの別荘になぜ寄らなかったのか？と言われてしまった。アサヒビールのスパードライをご馳走になる。明日の食事の予約もする。自分たちの料理人を使ってレストランを彼はやっている。この後ゴルフ島のGouviaマリーナに行く旨伝えたら彼のバースがあるからそこを使ったらよいと提案してくれる。彼の艇は夏の間エリコウサ島の漁港に繋留してある。Gouvia マリーナに連絡しておくとの事だった。もしバースが借りられたら助かる。

20時は未だ日中だ21時半ごろから薄暮になる。一日をいっぱい使えて得した気分になる。

夕食は昨日のオニオコゼの半身の煮つけとカルパッチョの残りで作った雑炊を頂く。カルパッチョのスープの味が良く染みて美味しいリゾットになった。

7月14日(木) Erikoussa 快晴 微風

錨泊はアンカーがしっかり効いていると、ゆっくりした時間を過ごせるので好きだ。

コーヒー、ヨーグルト、フルーツとビスケットでの朝食の後ラバーボートで岸に上がる。

PCの調子が悪いのでWI-FIマイクロソフトと連絡して調べるが直らないので諦めることにする。

私がCAVOK5に居ない間にSandroの使いが来て港に係留してある彼の艇の隣に来るよう伝言してくれた。少しうねりが入って艇の揺れがあったので気を使ってくれた。それ程

揺れが気にならなかったので移動をしなかった。

お昼はソーメンをビールで頂く。海で泳いだ後のソーメンは格別美味しい。

午後は海風を浴びながら読書をしたり、海に浸かったり気ままな時間を過ごす。

夕方 8 時に Sandro のレストランの予約をしてあるのでラバーボートで上陸する。

Sandro 夫妻が歓迎してくれる。彼の息子夫婦も来ていた。

前菜にタコのクリームソースとマグロのタルタル、メインにマグロのトロ刺し、叩きと胡麻和えのグリルを白ワインで食べる。トロ刺しは、今一だったが叩きは美味だった。

グラッパを夫妻と一緒に頂き、コルフ島周辺の素敵なお宿を教えてください。

コルフ島の Gouvia マリーナに暫く置いて帰国する予定であったので彼の空いたバースに係留させてもらう事にした。

8 月中旬に又訪問する事を約束して艇に戻る。半月だが月明かりが綺麗だった。夜中デッキに出ると月も沈み満天の星空に天の川がくっきりと東西を分けていた。

7 月 15 日 (金) Elikoussa ~ Corfu (3 0 NM) 晴れ 南 1 0 ノット

08:20 にアンカーを揚げる。アビームの風になる南風を受けてセーリングする。風が大変変化する日で無風になったり、東になったり南に戻ったりした。結局セーリング出来たのは最初だけで後は機走になる。アルバニアとコルフ島間の海峡に入ると無数のヨット、モーターボートが行き来している。コルフ島の歴史はギリシャ時代に遡るがヴェネツィア時代の旧市街地は世界遺産に登録されている。又エリザベートが愛した島としても有名だ。

ギリシャ人、英国人に人気の島になっている。

Gouvia マリーナに入ってからガガソリンステーションに横着けして給油する。77L 入る。1 時間当たり 3 L の消費量であった。若干多めだった。

ここでマリーナのスタッフに Sandro からのメッセージを伝えると彼のバースに案内してくれた。14:00 に彼のポンツーン C-32 に舫う。



オフィスに行って手続きをするが係留料も無料で8月中旬まで置けることになった。

このマリーナはギリシャとトルコに多数の良いマリーナを持つグループ D-Marine の一つで、係留で1235隻、陸上で600隻置ける大きなマリーナで完璧な設備が整っている。

早速マリーナのバーに行き乾いた喉を潤しお昼を食べてなかったのでハムサンドを食べる。

ソーラパネルの充電を示すランプが点かないのと、スプレーフードを新しくしたいのでマリーナのテクニカルサポートに行くと直ぐ業者を紹介してくれた。チャンドラーに寄ると前に来たのを覚えていてくれた。

熱い体をプールで冷やす。子供はプールではしゃぎ、大人は長椅子に寝ころび日光浴をしている。3日間錨泊したのでプールで泳いだ後のシャワーが気持ち良い。全身を隈なくシャンプー、石鹸で洗う。

明日 Lisa が来るので空港に迎えに行く手配を整える。

9時過ぎに夕食になる。ペッパーのオリーブオイルマリネ、エビのアヒージョ、野菜サラダと冷やし中華を頂く。

揺れないマリーナの中でゆっくりやすむ。

7月16日(土) Corfu 快晴

コーヒー、ヨーグルト、フルーツの朝食をすましてから、艇の水洗い、洗濯をする。10時過ぎにバッテリーの劣化具合とソーラシステムのチェックに業者が来る。バッテリーは4つあるうちエンジンバッテリーを除き3つ弱っていたので交換する。前回2012年に代えたので丁度時期だと思う。エンジンバッテリーは2013年に交換したのと、いつもエンジンバッテリーだけは切り離している所以問題は無かった。

ソーラシステムの方は充電電圧が低いという事でパネル4枚の交換を考える。

業者が出たり入ったりしている中でソーメンをお昼に頂く。

今日の夕方 Lisa が来るのでレンタカーを借りる。3日間で185€で繁忙期料金だ。

18:50 コルフ空港着の便で来るが早めにマリナーを出てスーパー・マーケットで買い物をする。

予定通り Lisa は到着して久しぶりの再会を喜ぶ。彼女は毎年乗艇しにくる。

艇に戻ると時間は21時になっていた。サラミ、ソーセージ、ハムとペッパーオリーブオイルマリネをつまみながら簡単な歓迎会をする。彼女は何とドイツの大学のプロフェッサーに昇進したとの事、明日昇進祝いをすることにした。

お土産に20種類はある香辛料のセットとロシア産のメロンを持って来てくれた。

彼女は行く所を良く調べているのでこれからが楽しみだ。

7月17日(日) Corfu 晴れ 北強風

Lisa は艇で寝る静かさが好きだそう。今朝も9時過ぎまでゆっくり寝ている。

コーヒー、フレンチトースト、ヨーグルトとネクタリンで朝食をとる。

これから暫く風が強いのでセーリングと錨泊は諦める。

今晚は Lisa のプロフェッサー昇格祝いの晩餐会を予定しているので島内観光の前にシャンパンと生ハムの買い物をする。冷蔵庫にしまった後、Lisa のナビゲーションでコルフ島の南に行く。途中日曜市がありそこで羊の丸焼きをしていたのでお昼用に買って浜辺で昼食をとる。上手に焼けていて美味しい。特に皮の部分が特別美味しかった。

その後 Limini Korission の湖によってバード・ウォッチングをするが風が強いせいか数羽の鳥を見ただけだった。

島の南の海水浴場の Kavos に行く。大変大きな海水浴場で町も賑やかだ。夏休みに入ったせいか若い男女で賑わっていた。

一日一度海に浸かると体がしゃきしゃきする。

艇に戻ってから、シャンパンと彼女のロシアからのお土産のメロンとキャビアでプロフェッサー昇格祝いをする。メロンは生ハムと、そしてキャビアはブレッドにバターをぬってその上にキャビアをたっぷりのせて食べる。

満月が近づいてきて、夜風が寒いくらいの爽やかな夜だった。

7月18日(月) Corfu 快晴 北北西強風

朝 11 時にソーラシステムの業者が来ることになっていたが 12 時になるとの事で明日に
してもらおう。いつものメニューの朝食後、ハムのサンドウィッチを作って今日は島の中央
部を観光することにする。すべて Lisa がプランを作ってくれるので助かる。

コルフ島は歴史ある島で紀元前 8000 年前の青銅器時代に人が住み始め、紀元前 5 世紀か
らは古代ギリシャその後ローマ、ヴェネチア時代、そして 1716 年にはオスマン帝国の
攻撃も凌いでいる。近代ではナポレオンのフランスへそしてイギリスの統治に入り 186
4 年にギリシャへと歴史のつぼのある島だ。

最初に 1200 年代のヴェネチア時代に建てられた要塞 Agelokastro に行く。島の西の海か
ら聳え立った岩壁の上にイオニア海を見下ろすように建って居る。素晴らしい海の景観だ。
お店に入り生レモンジュースを飲みながら景観を楽しんだ。途中殆どがオリーブの木で覆
われていた。その後 Vatos のリゾート地を覗いて Gordis の海水浴場に行く。島の西側のこ
の辺りの海岸線はコバルトブルーの海で大リゾート地になっている。

日光浴用のベットを借りて遅いお昼を食べながらのんびり過ごす。波が高く泳いでいる
人は稀だった。

19 時に予約しておいた、来る途中にあるレストランに行く。フェタチーズの乗ったグリ
ークサラダ、チーズとオリーブオイルとトマトで煮込んだエビとムール貝のサガナキ、ラ
ムチョップそして魚（オラーダ）のオープン焼きを地元赤ワインで食べる。この店は Lisa
が友人から是非行くように薦められてきただけあって、野菜も肉も魚もフレッシュでサガ
ナキの味付けは見事な味であった。3 人でお腹一杯食べて 60 € だった。

日没が 21 時頃なので艇に戻っても未だ明るさが残っていた。コックピットでワインを飲
みながら再度 Lisa の教授昇格祝いをする。風が心地よい過ごしやすい夜だった。

7月19日(火) Corfu 快晴 微風

朝ソーラパネルの交換について業者と作業の行程について話す。今ついている同じパネ
ルを取り付ける様に要請する。同じパネルを取り寄せるのに時間が掛かるとの事だ。こち
らは 8 月 7 日にコルフに戻り 9 日にはここを出航する予定だ。中々ヨットの整備は予定通
り行かないのでかなりのネゴシエーションが必要だ。結果メールで詳細を連絡くれること
になった。

今日はコルフ島の南部をドライブすることにした。コルフ島の一番高い山 Mt.
Pantokrator に最初に行く。コルフ島は他のギリシャの島に比べてはるかに緑が多い。山道
はオリーブの木と雑木林だ。所々小さな村があり、ブーゲンビリア、ノウゼンカズラの鮮
やかな色の花々でテラスや塀を飾ってあり、目を楽しませてくれる。山の頂上に上がると
コルフ島の海岸の変化する海の色、その先にはアルバニアの高い山々が聳え素晴らしい景
観だった。山の上のショップでコーヒーを飲みながら景色を楽しむ。



その後 Lisa が調べたコルフ料理のレストランを探していく。ピンポイントになるレストランを何とか見つけた。グreekサラダ、オニオンリング、ペッパーのグリル、ズッキーニボールを前菜にしてメインにナス、ジャガイモ、ミートソースにパルミザンチーズを重ね焼きしたギリシャの典型的な家庭料理ムサカ、そしてラムチョップ、ビーフステーキをハウスワインで食べる。ここのムサカはお店の主人のお母さんの料理だそうで今までで一番おいしかった。お勘定は51€だった。素晴らしすぎる。

お腹を一杯にした後島の南東部の Kalamaki ビーチに行ってデッキチェアを借りて食休みをする。砂浜で遠浅の綺麗なビーチだ。直ぐ先にはアルバニアの山々が見えた。

休んだ後いつもの様に泳ぐ。駐車場は無料で、デッキチェアは三人分パラソル付いて7€と安い。

帰りの途中でベーカリーによってブレッドを買う。ロシア人の Lisa はブレッドにこだわる。

21 時過ぎの夕食は前菜にメロンと生ハム、キャビアとパンを白ワインで頂く。御馳走の遅かった昼食のせいもあって用意してあったグリーンカレーには届かなかった。

満月の夜を楽しんだ。

7月20日(水) Corfu 快晴 微風

今日はエリザベートが愛したというアヒリオン宮殿と世界遺産のコルフ(ケルキラ)の

旧市街を廻る。

アヒリオン宮殿は 2 回目の見学になるが宮殿の中庭にギリシャの英雄アキレウスの像がイオニア海を見渡すように立って居る姿が見事だ。

クルーズ船が 2 隻コルフ港の沖合に錨泊しているせいもありクルーズ船の人達で賑わっている。

旧市街地ではシーフードで定評のあるという 1932 年創業のレストラン “REX” で前菜に生ハム入りサラダ、アーティチョークのフライ、ナスの和え物を食べて、メインにムール貝の白ワイン蒸しとヒラメのグリルを食べる。ヒラメは新鮮で上手に焼いてあり中々の味だった。

明朝早く帰国するので悦子は孫へのお土産を探して買う。

レンタカーが 16 時返しなのでマリーナに戻りレンタカーを返してから艇を 2 週間強の間繋留しておくので留守の間の準備をしておく。明日の空港までのタクシーも頼む。

ソーラーシステムの業者と、我々がここに戻ってくる 8 月 7 日までには確実に取り付けて置くよう確認した。

プールで泳いだ後シャワーを浴びて 20 時前からコックピットでメロンを中心にサラミ、生ハム、タラモで宴を始める。

今日もグリーンカレー迄届かなかった。明日は 05 : 00 にタクシーが迎えにくる。

早いので早く寝る。

7 月 21 日 (木) Corfu ~ Japan

朝 5:00 にタクシーが迎えにくる。シーコック、戸締り等の確認をして離船する。Lisa は遅い便だが一緒に出る。Lisa とは空港で別れ彼女はそのまま市内に行く。

06:40 に飛行機は定刻通り出発する。アテネで乗り継いでウィーンから成田へ帰るがアテネでの乗継時間が 40 分しかないので心配していたがスムーズに行き問題は無かった。

ウィーンでは約 6 時間のインターバルがあったが無事成田空港に 22 日お昼に着いた。